



行滕山（延岡）油彩 菅谷幸則 画



宮崎県版  
No. 332

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
宮崎県本部  
〒880-0031  
宮崎市船塚 3-193  
電話 0985(26)4224  
FAX 0985(20)3154  
郵便振替口座

### 私たちの運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対すること
- 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

相川勝六（戦前第9代宮崎県知事、戦後県選出国會議員）

について(7) 野崎 眞公

相川知事の経歴・政治手腕については、彼の言動を通して紹介してきたので読者子も彼の人柄について多少理解できたのではないかと思う。今回は相川知事の「紀元二千六百年祭」と「八紘一字」の塔建設について、少し触れておきたい。

▲相川知事は帝国政府による紀元二千六百年記念事業を成功に導くために、また建国創業の地である日向・宮崎県政の浮揚を図るためにも、一大事業を起こさねばと考えていた。二・二六事件の報告遅れによる朝鮮総督府への左遷？を挽回するためにも敬神家・相川にとっては願ってもない好機到来であった。

▲結果的に宮崎市に巨大な石造建築「八紘一字」の塔を



建設したことで相川知事は中央で評価され一躍著名人となった。相川知事が塔建設の構想をねり彫刻家日名子実三が塔の設計を担当し、昭和十五年十一月二十五日に「八紘一字」の塔（八紘之基柱）の竣工式が行われた。

▲塔建設の経緯…日中戦争が二年を経過・長期化の様相に、国民の苛立ちや不満がつもっていた。県民を安心させ、日中戦争を勝利に導くためにもより銃後の守りを固め、紀元二千六百年の奉祝事業を成功させねばならなかった。▲一九三八年十月、相川知事が「宮崎県奉祝会」会長となり、奉祝事業の一つとして第一回の常議員会で、塔の建設を決定した。「塔の建設については同年の七月中旬・県政記者を県公会堂に招き「紀元二千年六百年奉祝事業」の構想を語りアイデアを求めていた」。

同年、十月二十六日、都城第二十三連隊を先頭に日本軍は、武漢三鎮を占領。しかし、首都を重慶に移し徹底抗戦を続ける中国政府。▲当初軍部や政府は三か月でカタをつけるかと豪語「暴支膺懲（ぼうししようちよう）」日本という言葉をかきかかないので懲らしめるとしていたが戦線は膠着・泥沼化し皇軍の死傷者も数万にのぼった。▲国民の不満をどう解消したらいいのか。政府は、「紀元二

千六百年祭」を大々的かつ派手に実施する事で不平・不満をそらすことを考えた。同時に戦争目的をより明確にすることで国民の動揺（厭世的風潮もあり）を抑えより一層の団結を謀る政策を提示しなければならなかった。

▲近衛内閣は、一九三八年十一月三日、戦争目的は「東亜新秩序の建設」であると「東亜新秩序声明」を発表。今回の戦争は「八紘一字」の大義に基づく「聖戦」であると断わり、国民を鼓舞しつつ戦争へ駆り立てていったのである。

▲相川知事の「塔」建設も急がなければならなくなった。県会の要望を踏まえ翌一九三九年二月十一日に「紀元二千六百年宮崎県奉祝会設立趣意書」を発表。奉祝事業の一つ「八紘一字」（仮称）の塔の建設が正式に決定した。翌二十二日塔の名称が「八紘之基柱（あめつちのものとはしら）」と決定され、塔の正面に「八紘一字」の文字が刻まれることになった。

次号につづく



ラッキョウの花

### 監視社会ニッポン

原 秀樹

今、テレビの刑事ドラマに人気がある。そこでは、「防犯カメラ」監視カメラ」やGPS追跡、道路に設置されている「Nシステム」自動車ナンバー自動読み取りシステム」などが犯罪者の追跡や立証に使われている。今後はナンバーカード使用時の「顔認証システム」も活用され、個人認識・個人情報が筒抜けになっていく。言い換えれば、我々は自覚しなくても、今の時点でいつも監視されている状態にあるのだ。

また、傍聴システムを公表したスノーデン氏によるとアメリカのある機関では、常時各種の通信を傍受し、必要な情報を得ているとのことだ。

わが日本でも、「共謀罪」や「重要土地等調査法」基情報保護法」が制定され、民主的運動（民主化や反戦行動など）も、いざというときは、戦前のように弾圧されかねない。

今私たちが取り組めることは、マイナンバーカードの義務化を止めさせることだ。

\*\*\*\*\*

マイナンバー制度は、カードの利用によりあらゆる情報を国が一元的に取得し管理する制度だ。一部には利便性の向上もあるが、色々な面で問題のある制度と言われている。

もう一点は、今行われている「監視システム」は、社会に役立っている部分もあるので、すべてを廃止することはできないと思うが「監視」の自覚を高め、より良い利用にするための制度を設け、正しい利用を管理していく必要があるのではないだろうか。



りんどうの花

年会費（4000円）納入のお願い  
すでに納入された方はありがとうございます。  
まだの方は早めの納入をお願いします。

連絡先 鳥井 090-4340-333



## 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

沖繩・九州ブロック 沖繩大会 報告 (1)

第一日目…十一月十九日(土曜日)

☆復帰50周年シンポジウム(同盟・あけぼの印刷共催)

### 平和で豊かな沖繩の実現を!

～沖繩の過去・現在・未来を語る～

〈基調提起〉提起者…村山 純(同盟沖繩県本部会長)

〈パネルディスカッション〉

パネリスト…比嘉愛子(浦添市老人クラブ連合会会長)

比嘉瑞己(沖繩県議会議員)

元浦添市議

野垣 麦(民青同盟沖繩県委員長)

コーディネーター…大城辰彦(あけぼの印刷(株)社長)

参加者 本部…1名 九州…4名

沖繩…同盟会員25名・会員外29名 計59名

○村山会長はB4版18枚の資料を基に基調提起。

- ①復帰50年―県民の歩んできた歴史と闘いをふりかえる。
- ②戦前、治安維持法によって沖繩でも100名以上の県民が弾圧された。
- ③県民の4人に1人が亡くなった太平洋戦争。
- ④自公政府がすすめる「戦争への道」。
- ⑤不屈にたたかう県民の歴史に確信をもとう。

○比嘉愛子さんは終戦時、同年代の6歳の少女の死を目の当たりにしたことなど、戦争中の経験を話された。また、

社会の高齢化により、老人は行動しなくても身体的・金銭的問題に直面しているが、戦後、福祉活動を続けてきたというプライドがある。気持ちは強い。と断言された。

○比嘉瑞己さんは40代。現職の県議として、今年の県知事・参院選では勝利。名護市長・沖繩市長選では敗北と一喜一憂した。しかし、①復帰後の歴史を見て、諦めずに闘ってきた歴史に学んでいる。また、②沖繩の問題を他県と共有し、全国に拡げたい。沖繩と本土との連携をはかり闘っていききたい。

○野垣麦さんは、他県からの移住者。20代の女性である。若い人は、日本国憲法に帰ったかたという先人の気持ちや組織とは何かということがあまりわかっていない。今の政府の何が問題なのかをわかっていくことが大切。対話を拡げていきたい。

○村山同盟沖繩会長。沖繩県民が本土で沖繩県人会をつくり、そこで若者を育て沖繩に返してきたという実績がある。全国に拡げていく。

○田中国賠同盟本部署務局長。

沖繩の問題は日本国民の問題であるという認識・自覚をもつことが、解決につながる。

\*平和の世・平和な生活の実現のために闘ってきた皆さんの、今も続く力強く闘う心を衷心より感じました。続く